

1 研修プログラムの目的及び特徴

研修医は選択研修期間において、眼科を研修できる。眼科診療の特殊性を理解し、primary care に対処するために必要な眼科領域の基本的診断や治療に関する知識と技術を習得する。このプログラムでは、卒後初期研修科目としての眼科研修を通して、将来眼科を専門科として標榜しない場合でも、眼科を自ら実践することで、眼科医療の特性や、社会における眼科医療の役割を学ぶことを目的として作成したものである。

2 研修指導責任者

高綱 陽子（眼科部長）

研修指導医

高綱 陽子（眼科部長）

八木澤 克弥（眼科医師）

玉井 瑠人（眼科医師）

3 研修内容と到達目標

（１）一般目標（GIO）

眼科における基本的知識、技能、態度を習得し、診療をおこなう上での循環器疾患全般にわたる基礎的臨床能力を習得する。

１）眼科救急医療において、患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を確立できる。

２）医療チームの構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調し、患者の問題点を把握し、問題対応型の思考を身につけることができる。

３）患者・家族から診断・治療に必要な情報が得られるような医療面接を実施することができる。

４）救急患者に対して初期診療ができる。

５）眼疾患に対して適切に症例呈示ができる。

（２）行動目標（SB0s）

眼科初期研修で習得すべき項目である、患者—医師関係、チーム医療、問題対応能力、安全管理、医療面接、症例呈示、診療計画、医療の社会性など各項目の習得状況を確認しながら、次に掲げる行動目標を習得する。

A 経験すべき診察法、検査、手技

１）基本的診察法

① 視診・触診

- ② 神経眼科的検査（瞳孔反応、眼球運動、対座視野）
- ③ 斜視検査

2) 基本的な臨床検査

- ① 細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、眼圧検査、隅角検査
- ② 視力、屈折検査
- ③ 視野検査

3) 基本的手技

- ① 眼瞼反転
- ② 洗眼
- ③ 眼科における消毒
- ④ 眼科における包交
- ⑤ 点眼
- ⑥ 軟膏塗布

4) 基本的診断

- ① 屈折異常
- ② 角結膜障害
- ③ 前房内炎症
- ④ 中間透光体の混濁
- ⑤ 眼底異常
- ⑥ 視野異常
- ⑦ 眼球運動異常

B 経験すべき症状、病態、疾患

1) 症状

- ① 視力障害
- ② 視野障害
- ③ 飛蚊症
- ④ 結膜充血
- ⑤ 眼痛
- ⑥ 複視
- ⑦ 眼脂
- ⑧ 流涙

2) 疾患、病態

- ① 白内障
- ② 緑内障

- ③ 網膜剥離
 - ④ 糖尿病網膜症
 - ⑤ 網膜中心静脈閉塞症
 - ⑥ 眼外傷、異物、眼瞼裂傷
 - ⑦ 緑内障発作
 - ⑧ 網膜中心動脈閉塞症
 - ⑨ ぶどう膜炎
- C 特定の医療現場の経験
- 救急医療
- 眼科救急外来を経験する

4 学習方略 (LS)

1 病棟研修

スタッフと共に入院患者の診察・回診を行い、問題点の整理、検査・治療計画に参加する。

2 外来研修

スタッフと共に外科患者の所見・診断・治療方針の決定に関わる。

3 カンファレンス

症例カンファレンス、病棟回診前カンファレンスに参加し、症例のプレゼンテーションを行い、診断・治療方針の決定に関わる。

4 実技研修

視力検査、視野検査、斜視検査、細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、眼圧測定に参加し、その適応、実施方法、診断に関わる。小手術の術者、白内障手術の助手の手技を経験する。

週間スケジュール

	朝	午前	午後	
月曜日		外来研修	斜視検査	眼底造影検査 病棟回診
火曜日	術前診察	手術	手術	病棟カンファレンス
水曜日	術後回診	外来研修	術前検査	術前回診
木曜日	術前診察	外来研修	手術	外来カンファレンス
金曜日	術後回診	外来研修	レーザー治療	一週間のまとめ

5 評価方法 (EV)

SB0s	目的	対象	方法	時期	測定者
1) -7)	形成的	知識・技能	実地観察	中・後	指導医
3) -4)	形成的	知識・解釈	実地観察、口頭	中・後	指導医
8) -10	形成的	知識・解釈	口頭	中・後	指導医
11)	形成的	態度	観察	中・後	指導医コメディカル
12)	形成的	態度	観察	中・後	指導医コメディカル

6 評価

研修医は PG-EP0C に自己の研修内容を記録、評価する。

実施責任者および看護師を含むチーム医療のスタッフが研修医の診療および研修態度を研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを用いて評価する。なお、評価票はインターネット上のシステム（PG-EP0C 等）を使用する。

各評価をもって 2 年目修了前に研修管理委員会にて総括評価を行い、修了判定の資料とする。

初版：令和 4 年 1 月 24 日

改訂：令和 7 年 2 月 28 日

令和 7 年 7 月 1 日